# 「現代中国学の新たなパラダイム　コ・ビヘイビオリズムの提唱」に対するコメント

（大野太幹・ICCS 研究員）

①社会科学研究において、客観性は存在しない。
②当事者の外側から見る観察者であってはならない＝共同主観性の必要性。
　→大いに啓発、賛同

その上で、論文の読後に抱いた疑問点を以下に挙げる。

◎「国別学」における「国」とは何を指すのか？
それは“国民国家”なのか？だとすれば、「現代中国学」における「中国」とは国民国家としての中国、つまり“中華民国”あるいは“中華人民共和国”を指すのか？

●「国」が国民国家を指す場合
①あくまで現在の国境線に基づき、地域の歴史的な変遷などは視野に入れないのか？
②国家を持たない民族（クルド・パレスチナなど）は、現在居住する地域を支配する国家の「国別学」に含まれるのか？

●「国」が国民国家を指すのではない場合
何を以って「国」ないしは「国」の領域を定義するのか？
※「国」を定義することの政治性
東北プロジェクト（東北工程）―中国社会科学院による中国東北地域研究プロジェクト
中国側＝高句麗を“中華領域の一地方政権”と定義。
韓国側＝猛反発。高句麗を“朝鮮民族の一大王朝”と認識。
　→中国東北地域は歴史的にどの国家（民族）に属するのか。
　⇒「国」ないしはその領域を定義すること自体に政治性が大きく影響。

◎「国別学」は“越境（トランス・ボーダー）研究”と共存するのか？対立するのか？

中国東北地域―現在は中華人民共和国の領域。
近代＝漢族・満洲・朝鮮・モンゴル・ロシア・日本。
地域史研究―国民国家あるいは国境を越えた複合的な視点が必要。
　Ex.琉球―東アジア・東南アジア、アイヌ―サハリン・アムール（黒龍江）流域